



7月14日(木)に西山別館で毎年恒例のゆかた会が開かれました。我々、会員・地域交流委員会のメンバーは設営準備の為、昼ぐらいには現場にはいり、15時前にはほぼ形になりひと段落ついていました。

すると、真っ黒なゴロゴロといった雨雲が近づいてきて、ものの10分で大雨の影響で設営がだめになりました(涙) 1時間もすると雨は弱くなりましたが、椅子が濡れてだめになったのと、足元が悪い中でのゆかた会がいかげなものかと、メンバーで相談した結果、室内での開催に急遽変更となりました。

西山別館の従業員さんの助けもあったため設営は無事終わりましたが、音響などの設備機器が変更になり終始冷や冷やし、一からリハール始めました。

OB、特別会員の皆様とのゆかた例会がはじまり、普段の例会とは一味違うものとなりました。

私は始めてのゆかた会でしたが、この様な雰囲気の中での例

## 7月例会 ゆかた会

来年以降も参加するのが楽しみです。蝦名宇摩ファミリーの津軽三味線を皮切りにゆかた会がはじまり、生演奏ということもあって迫力もあり感動しました。その後も現役会員の本年度の活動映像をみていただいたり、先輩方と現役メンバーによる利き酒大会をしたり大いに盛り上がりしました。今回のゆかた会のテーマが「大切な環」ということで今年も久しぶりに、OB、特別会員の皆様にも来ていただき現役会員の我々は普段ない交流ができました。「大切な環」をひろげることができました。

会員・地域交流委員会は2回連続の雨事業にみまわれておりますが、まだ事業がひかえていますので引き続きよろしく願います。最後になりましたが本多直前理事長、利きビールは両方発泡酒でした、すみません。

(記事: 会員・地域交流委員会幹事 吉田雄太)



会が1年に1回あってもいいな、素晴らしい伝統行事だと感じました。後で聞いたら尾道独特の例会行事だと聞きました。

来年以降も参加するのが楽しみです。蝦名宇摩ファミリーの津軽三味線を皮切りにゆかた会がはじまり、生演奏ということもあって迫力もあり感動しました。その後も現役会員の本年度の活動映像をみていただいたり、先輩方と現役メンバーによる利き酒大会をしたり大いに盛り上がりしました。今回のゆかた会のテーマが「大切な環」ということで今年も久しぶりに、OB、特別会員の皆様にも来ていただき現役会員の我々は普段ない交流ができました。「大切な環」をひろげることができました。

会員・地域交流委員会は2回連続の雨事業にみまわれておりますが、まだ事業がひかえていますので引き続きよろしく願います。最後になりましたが本多直前理事長、利きビールは両方発泡酒でした、すみません。

(記事: 会員・地域交流委員会幹事 吉田雄太)



## 尾道をぶちすきになろう

### 今岡製菓編

6月号で掲載しました。テーマの「尾道をぶちすきになろう」の続編として、日本遺産に認定された広島牡蠣のクニヒロ株式会社は、創業から137年の営みを経て現在は粉末清涼飲料水を主に手掛けられており、その原料から製品ができるまでの工程をパワーポイントでわかりやすく説明していく中で、原料の種類、産地や色々な原料へのこだわりや想いを説明いただきました。その後2班に分かれて見学した生産工程などでは熱気の充満した部屋や、大きな音の中、仕事をされている方々をみて児童は楽しそうに話しをし、見学後はおいしいレモネードをみんなでいただき大満足でした。尾道は商人の町で、ひとつ、もの、お金、情報が集まる町として成長していく中で会社同士をお互いに盛り上げる良い協力のもとで発展してきたのだという事も実感することができた良い見学会でした。小学校の児童を招き、工場見学をすると言う事は、自分たちの町にはこんな会社があるんだ、もしかしたら将来の職場となっているかも知れないクニヒロ株式会社、今岡製菓株式会社、尾道には自慢できる会社がたくさんあるんだと実感してもらい、子供たちの興味の幅が広がること期待したいと思います。

(記事: 未来ビジョン委員会委員長 中谷純也)

## Summer Conference サマーコンファレンス 2016

2016年7月16日17日とパシフィコ横浜にてサマーコンファレンス2016が開催されました。麻生理事長、率いる尾道青年会議所の多くのメンバーも参加しましたが、その中でも日本青年会議所へ出向し大活躍されています。

JCヴィレッジ運営会議の加度副議長はサブシステム構築委員会と共にクオリティオブライフフォーラム(人生における豊かな暮らし)を設営し、3名の講師に持続可能なまちづくりについてのクロストークを頂きました。尾道から日本青年会議所に出向者しているメンバーの方々は前日も設営にご尽力いただき、毎年横浜にて開催されているサマーコンファレンスでの、日本青年会議所の運動を広く発信する事、そして青年会議所活動を広く知ってもらおうという場を作り上げるための努力をされています。一般の方々も参加できるため青年会議所を発信するための大変良い機会となっていることはまちがいありません。

(記事: 村上成司)

早いもので8月も半月ば過ぎとなりました。お盆もある8月は実際に稼働日数が少ないため委員会活動や仕事においても5月と同様、段取りの難しい月となりました。今月から合同委員会では理事長代行挨拶がはじまり、来月からは卒業生スピーチもはじまり、一気に卒業生は卒業ムードへ入っていくのではないかと思います。そんな周りの姿を見ながらなんだか少し寂しさを感じてしまう気がします。まだまだ夏真っ盛りではありますが、夏の日差しには気を付けて体調管理を十分に一ヶ月乗り切っていきましょう。

(記事: 村上成司)

# おのみちJC寺子屋2016 Growing Up

おのみちJC寺子屋2016in浄土寺〜Growing Up〜と題し地域教育及び青少年育成事業を8月6日、7日と浄土寺研修道場を拠点に行いました。寺子屋という形式で内容を変えながら行うのも今年で5回目となりました。前回までは西園寺で行っていましたが、今年は場所をかえての開催になりました。今年は目的に人を思いやる心、挑戦する意志、何事も当たり前ではないという事を感じて頂き、自分で観て、体験していく事で豊かな心を養って頂く事と様々なプログラムを実行していきました。

1日目はおのみち空き家再生プロジェクトさんにご協力頂きながらのまちあるき、そして銭湯体験、Tシャツを洗濯板を使っての手洗い体験、また当日は8月6日の原爆の日開催出来たことも重なり、元特攻隊の年永氏をお呼びしての講和もお聞きすることができました。その裏ではメンバーに精進力レーを作って頂き、参加者、スタッフと美味しく食べることが出来ました。まちあるきをした事も重なり、子どもたちは早めの就寝となりました。

2日目はラジオ体操に始まり、境内の掃除、座禅体験と普段では出来ない体験をして頂きました。その後はスタッフ自家製の味噌汁とご飯の朝食、そしてその後は私みずからの命の授業をさせて頂きました。昼食の前はKENDAMROCKCAFEよりモリマコ氏をお呼びし、けん玉体験をしました。みんなでけん玉をひとつ持ち初心者の技からどんどんレベルを上げていき、また技を参加者で競っていくなど大変盛り上がりしました。最後はモリマコ氏によるけん玉ショー、初めてみる常人離れたけん玉のトリックの数々にみんな歓声があがっていました。昼食はメンバーで作成した流しソーメン台で流しソーメン体験をしました。早く食べたい子どもたち、ソーメンを流したい子どもたち様々でしたが、みんな笑顔でとても喜んで食べられておりました。

そして最後は感想文作成と感想文発表、この発表を聞いているとこれまで色々悩みながら練ってきた日々の事が一瞬で報われた思いでした。当日は尾道市立大学のシグマソサエティ同好会の15人に子どもたちのサポートをして頂きながら運営していき、我々委員会のみではなく他委員会からも多数のサポートを頂きスムーズな運営をしていく事ができました。動員から設営、運営と地域教育推進委員会をはじめとする委員会メンバーまた尾道青年会議所全メンバーには本当にご協力を頂き誠にありがとうございました。まだ残り4ヶ月、事業の方もまだまだ残っております。これからもどうぞよろしくお願いたします。

(記事：地域教育推進委員会 委員長 大西 貴明)



## 新入会員ガイダンス

先月7月12日に尾道商工会議所2階大会議室において、2016年度新入会員候補者を対象とした新入会員ガイダンスが開催されました。新入会員候補者は都合もあり数名参加できませんでしたでしたが、14名の新入会員候補者が初めての公式事業としての場に追加されました。候補者の皆様は、青年会議所のメンバーに囲まれ、緊張した面持ちで真剣に麻生理事長のあいさつを聞きその後、安本専務理事によるパワーポイントを使った青年会議所とはどのような団体であるか、尾道青年会議所がどのような事業があったのか、また、日本全国の青年会議所では多くの同士が賛同し、青年経済人として青年会議所活動を行う中で切磋琢磨し、自分磨きに励み、多くの友情をはぐくんできていると言う事など新入会員として再度尾道JCへの魅力を再確認して頂ける場となった事と実感しております。新入会員候補者はまた、疑問に思ったことを一人ずつ質問していただきましたが、個々の疑問を解消でき、良い質疑となりました。新入会員ガイダンス後に行われた懇親会では多くのメンバーと名刺交換をし、今まで話す機会がなかったであろう人との交流が新たに始まっていく様を見ることができました。11月には正会員となるためのバッジ授与式もありませんが、皆さんがこの3ヶ月を大いに経験できる場を提供できればと思います。

(記事：拡大研修委員会委員長 今岡正英)

## 尾道住吉花火祭り 翌日清掃

尾道住吉花火祭りが行われた翌日は町には多くのボランティアの方々が登場します。祭りの後のシティークリーニング、尾道の町はこういった活動に参加して下さる地域の皆様や学生さん、もちろん尾道青年会議所の有志も頑張っています。

(記事：村上 成司)



## 御袖天満宮 夏季大祭

まちづくり推進委員会、中司委員長率いる尾道青年会議所の精鋭は今年も御袖天満宮夏季大祭に7月17日に参加してまいりました。尾道市旧市街地周辺を練り歩き白足袋、しる短パン、そしてサラシとねじり鉢巻が、俺がやってやると言わんばかりの意気込みを感じる中多くの若者たちと共に尾道の伝統文化の継承と、まちの活力の一助となるべく昼から夜20時まで、大いに楽しむことができました。

(記事：村上 成司)



今回は、むし菌に関する研究で大学の教授クラスもびっくりという、興味深いお話です。研究といっても疫学調査研究なので、そこまで難しくはありませんのでお付き合い下さい。さて、その研究とは、2000年〜2011年にかけてフィンランドで行われたものです。調査対象人数は1702人の成人で、「砂糖V.S.ムシ菌発生率」の関係について調べました。その結果が、「砂糖は1日に口にすると回数より、1日に口にすると総量がムシ菌発生率に影響する」というものです。これ、業界では結構衝撃だと思えます。今まで我々は、「だから甘いものを食べない」とは駄目だと論じ、「お菓子は食べていいけどできるだけ回数を減らすように」と熱血指導していたわけですが、総量についてはほぼスルーしてしまっていました。正直な感想は「回数より総量のほうがリスク高い？マジで？」という感じですが、ここで注意してほしいのは、「回数増やしても大丈夫ということではない」ということです。摂取回数も重要なムシ菌リスクですが、それよりも総量も重要と重要だったということなんです。これに呼応するように2015年にWHO(世界保健機構)が報道機関に対し砂糖に関する以下の指針をプレスリリースしました。「1日の砂糖の摂取を25グラム以下(茶さじ6杯)に抑えること。これによって、体重過多、肥満、う蝕を予防する」：因みに350ml缶の炭酸飲料には砂糖40グラム入っているそうです。25グラムってかなり厳しい条件のようですね。

(記事：鍋島 巧)

歯科医師 鍋島 巧 コラム

# 歯は命